フロンティアスクール中間報告書

都道府県名 新潟県

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	三条市立三条小学校								
学 年	1年	2 年	3年	4年	5 年	6 年	特殊学級	計	教員数
学級数	1	2	1	1	1	1	3	1 0	2.0
児童数	3 1	3 7	3 0	3 3	3 6	3 0	1 2	2 0 9	2 0

研究の概要

1.研究主題

どの子にも確かな学力をつける学習指導の改善 ~ 習熟度別指導の工夫 ~

2.研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

全学年の国語科・算数科

国語科:すべての学びの基礎となる教科であるため

算数科:子どもの理解度に差が出やすく、系統性が強い教科であるため

(2) 年次ごとの計画

テーマ

・どの子にも確かな学力をつける指導過程を探る

国語:論理的に書く力を高める

算数:論理的に考え、理解する力を高める

成 仮説

亚

14

年

度

・国語:「書く」ことにかかわって、国語科のどの単元で、何を、どのよう に学習するかを位置づけ、指導過程を工夫して指導すれば、子どもは、論理 的に書く力を高めることができるであろう。

・算数:指導過程に着目し、子どもに問題の状況が分かるように課題を工夫 して提示したり、活動を組織したりすれば、子どもは、既習事項を生かして 考え、分かり、できるようになるであろう。

研究内容・方法

以下のことがらについて、授業実践を通して明らかにする。

- ・国語科の「書く」と算数科において、指導過程の基本形をどうすればよい
- ・単元ごとにどのような指導過程を組織すればよいか。
- ・子どもの見取り(評価)をどのように指導に生かせばよいか。

テーマ

平

成

15

年

度

・どの子にも確かな学力をつける学習指導の改善~習熟度別指導の工夫 研究の見通し

・国語科「書くこと」、算数科「数と計算」領域において、指導過程と教材を工夫して習熟度別少人数指導を行うことにより、どの子にも基礎・基本を 身につけさせる。

研究の内容・方法

・ 全学年で、国語、算数合わせて年間5単元以上、習熟度別コース選択学習を実施し、それにより、次のことを明らかにする。

加配のない学年でも、習熟度別コース選択学習をする体制づくりをどう工夫すればよいか。

評価を活かした習熟度別指導グループ編成をどう工夫すればよいか。 指導過程と教材をどう工夫すればよいか。

* なお、「習熟度別少人数指導の工夫に関する先行的実践に取り組み、その成果を広く地域に普及する」というFS校の使命を鑑み、その使命により正対するため、昨年度の中間報告書の内容から変更した。

テーマ

平 成 16 年

度

・どの子にも確かな学力をつける指導のあり方・教育課程のあり方 研究の見通し

・15 年度に引き続き、子どもが基礎・基本を確かに習得するための指導の改善を図るとともに、生きる力を高められるよう教育課程を改善することで、 学習意欲を一層高め、学力を総合的に向上させていく。

研究内容・方法

・子どもが基礎・基本を確かに習得するための指導の改善を継続発展させるとともに、より意欲的に学べるようになるために、教育課程や指導のあり方を見直し、改善する。

(3) 研究推進体制

運営委員会(校長以下6名)

研究推進委員会(研究主任以下7名)

- F S 国語部

FS算数部

全職員が いずれかに所属

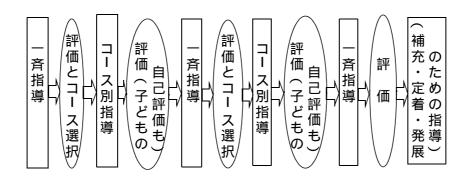
平成15年度の研究の成果及び今後の課題

1.研究の成果

(1) 級外の教員が単元の一部で臨時的入教をすることで、全学年で年間 5 単元の習熟度別コース選択学習の単元づくりを行う体制をつくった。

また、担任が、基本となる指導計画や教材を作成し、入教者とポイントを絞った 打ち合わせを行ってきた。

(2) 習熟度別指導を小単元ごとの短いスパンで行ってきた。子どもたちが自己評価と 選択を繰り返し、自分が最も分かりやすいコースで学習できるためである。グルー プ編成は固定的にせず、次のような過程を基本型にしてきた。



(3) 習熟度別のグループは、補充・定着・発展の3つの編成とし、それぞれのグループにおいては、子どもたちの分かりやすさに着目した教材を工夫して指導にあたってきた。

15 年度は、「どの子にも」できた・わかった喜びを味わわせ、 B 基準をクリアしてほしいという願いから、特に、補充コースにおいて、次のような教材・活動の工夫に重点的に取り組み、基礎・基本の確実な習得を目指してきた。

「もどる教材」

集材、取材、構成など、書く上で必要な段階まで効率よく戻ったり(国語) 既習内容を思い出したり(算数)するための教材。

わかりやすさを支援する教材

同時・継次的な認知処理の仕方やわかりやすさに着目し、開発した次のような 教材。

ア 「見える化教材」

全体と部分の関係、今学習している位置が一目で見えるようにしたり(国語) 問題場面や計算全体の形、位取りなどを視覚的にイメージできるようにしたり (算数)するための教材。

イ 「ことば化教材」

手順ややり方をスモールステップに分け、キーワードで示した教材。(国語・ 算数)

定着・発展コースの教材

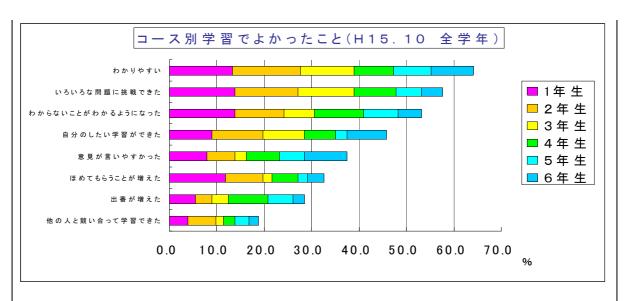
補充コースでの教材開発の考え方をすべてのコースで生かすほか、定着コースでは、学習内容の一層の定着を図るため、得意な部分を伸ばしたり、苦手な部分を克服したりできるように教材を工夫してきた。

また、発展コースでは、発展的内容をもつ課題や教材で、学習を質的に深め、より充実した学びの喜びを味わえるようにしてきた。

以上のような取組により、次のような成果が上がっている。

<学習意欲の向上にかかわって>

習熟度別コース選択学習のよさについてアンケートをとったところ、習熟度別コース選択学習のよさを、「わかりやすい」とした子どもが全校の60%を超えている。



特に低学年でその割合が高く、低学年でも習熟度別コース選択学習をする価値が高いと言える。

「わからないことがわかるようになった」とした子どもが全校の50%を超えた。これは、単に「わかった」だけでなく、「自分のわからなさがわかっていた」からこその回答である。評価とコース選択、自己評価を繰り返すことにより、子どもの自己評価力が高まってきていると言える。

「いろいろな問題に挑戦できた」とした子どもが全校の58%になった。個に応じたコース設定と、教材の開発の成果と言える。特に、低学年でその割合が高くなっているのは、単に習熟度だけでなく、学びのスタイル別にコースを設定した選択学習を行った成果であると言える。

<基礎・基本の定着にかかわって>

次の表は、同一の問題で調査した結果の昨年度との比較である。

新潟県小学校教育研究会学習指導改善調査結果〔数字は対県(100)比〕

<国語 >				
学年	領域	14 年度	15 年度	
	話す,聞く	1 0 4	103	
4 年	読む	9 5	9 8	
	言語事項	9 0	105	
	書く	1 0 1	102	
	話す,聞く	8 8	102	
5 年	読む	9 4	9 7	
	言語事項	1 0 0	1 0 1	
	書く	1 0 4	1 1 2	
	話す,聞く	1 0 1	9 9	
6 年	読む	1 0 1	105	
	言語事項	9 3	102	
	書く	1 0 2	102	

<算数>				
学年	領域	14 年度	15 年度	
4 年	数と計算	7 7	1 0 5	
	量と測定	6 0	9 3	
	図形	9 1	8 3	
	数量関係	8 2	1 0 1	
5 年	数と計算	9 7	8 6	
	量と測定	1 0 3	9 5	
	図形	8 6	9 2	
	数量関係	9 5	7 8	
6年	数と計算	9 5	106	
	量と測定	8 2	9 5	
	図形	1 0 0	1 0 9	
	数量関係	9 2	1 0 2	
		<i>J</i> 2	102	

学年差もあるので単純比較できないが、全体的に、基礎・基本の定着がより確かになったと言える。特に、習熟度別少人数指導に取り組んだ国語「書くこと」、算数「数と計算」、日常的に反復学習に取り組んだ国語「言語事項」に伸びが見られ、取組が成果を上げていると言える。

2.今後の課題

(1) 「自分で学習を進めていく子ども」を育てたいと願い、一人一人のわかりやすさ に着目して教材を開発し、実践を重ねてきたことにより、少しずつはっきりしてき

た次のような教材化の視点を、今後の単元づくりに生かしていきたい。

- ・どんな内容を、どうスモールステップ化していけばよいか。
- ・単元の中で「全体」と「部分」をどうとらえればよいか。
- ・「もどる」ときに、どのタイミングで、どこまでもどればよいか。
- (2) 国語の「書くこと」を支える基礎学力(言語事項)についての指導を、より計画的に進める必要性が見えてきた。言語事項の帯単元づくりを進めていきたい。
- (3) 15 年度は、主に補充コースを中心に教材・活動の工夫を図ってきたが、今後は 定着・発展コースについてもさらに研究を進めていきたい。
- (4) 今年度は、習熟度別指導に焦点をあてて取り組んでいるが、この研究の目的は、子どもたちに「確かな学力」をつけることであり、一人一人の子どもに「確かな学力」がついたのかが問われる。学力像をより確かにするとともに、それをどう評価するのかということについても明らかにしていきたい。

学力等把握のための学校としての取組

- ・定期的な学力検査(国・算)の実施(2~3年生は年1回、4~6年生は年2回)
- ・学習についてのアンケート調査の実施(全学年で年3回)

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

第1回地域協議会

- ·期 日 平成15年7月4日(金)
- ・場 所 三条市中央公民館
- ・内 容 学力向上フロンティアスクールの取組の概要発表及び各地域の 取組の中から成果や問題点について協議
- ・対 象 新潟県の指定した地域の代表校

三条市学力向上研修において、フロンティアティーチャーが研究概要を発表、その後のパネルディスカッションにパネラーとして参加

- ・期 日 平成15年7月31日(木)
- ・場 所 三条市中央公民館
- ・対象 三条市内の全小中学校教員

2年次中間発表会

- ・期 日 平成15年11月20日(木)
- ・会 場 三条市立三条小学校
- ・内 容 授業公開

2年国語、5年算数(いずれも習熟度別少人数指導)

研究の概要発表

分科会(国語、算数、学力向上経営)

全体指導

中越教育事務所学校支援第一課 長沢宗英指導主事

- ・対 象 新潟県の指定した地域の小中学校
 - 県内のフロンティアスクール
- ・その他 習熟度別少人数指導の指導計画、パンフレットを作成・配付。

その後も参加者以外から要請があった学校へ配布。(配布総数 400 部)パンフレットは、HPにも掲載。

第2回地域協議会(予定)

- ·期 日 平成16年2月24日(火)
- ・場 所 加茂市立若宮中学校
- ・内 容 学力向上フロンティアスクールの取組の成果と課題発表及び各 地域の取組の中から成果や問題点について協議
- ・対 象 新潟県の指定した地域の代表校

三条市教育委員会の学力向上プロジェクト事業とタイアップし、情報提供をしたり、指導を受けたりしながら普及に努めている。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)				
【新規校・継続校】 □	15年度からの新規校	♀14年度からの継続校		
【学校規模】 □	13~18学級			
【指導体制】	☑ 少人数指導 □ 一部教科担任制			
【研究教科】	□国語 □ 社会 □生活 □ 音楽 □体育 □ その他	夕 算数 □ 理科□ 図画亚作 □ 家庭		
【指導方法の工夫改善に関	₽有 □無			